

17期(主将:黒田茂暉、副将:鷗森一知)について

16期生も2人しか残らなかったが、17期生も最後までラグビーを続けたのはFWの黒田さんとBKの鷗森(うぐもり)さんの2人だけであった。

3年生になった二人は、このままではチームを構成することが出来ないばかりか、「部」そのものの存続にも危機感を感じ、結果として新チームの主力とならざるを得なかった2年生である18期に対し、同級生や19期をもっと勧誘するように命じた。

その結果、2年生、1年生とも10名位づつが在籍するようになりましたが、試合には絶えず1・2・3年生が混在して出場するような状態で、公式戦などでも特に目立った戦績は残っていません。

但し、黒田さんも鷗森さんも二人とも最上級生としての責任感から練習は熱心で、グラウンドが真っ暗になり、定時制の生徒が通学してくる時間まで毎日練習していた。少ないボールの中で、一番膨らんでしまったボールを選び、これに石灰を水で溶いたものを塗って白くし、夜間照明の無いグラウンドでよくパスの練習をした事が思い出されます。いま思い返せば千歳の伝統であった猛練習がここで途切れなかった事が次に続いたものだと思います。

(18期生が3年生になった時に、その猛練習の雰囲気などが19期生の反発を招き、19期生の全員退部につながったのかも知れませんが、ここでは割愛)

—18期談—